

自治基本条例をつくる会 会議概要

第8回会議	
開催日時	平成19年8月8日（水）18:30～21:00
開催場所	山陽小野田市役所 第2委員会室
出席会員	17名 岡村啓二、河野朋子、木林紀生男、草田和枝、杉本保喜 瀬戸信夫、徳重洋子、縄田祥子、長谷川眞幸、林久芳、平原廉清 松尾知勝、室住友子、山田義隆、山本克己、弓取康英、酒井敏正
出席職員	市長公室長・行政改革課長
協議概要	1. 新入会員紹介 1名 2. 前回議事録の不備について指摘 3. 工程表の作成について ①行革大綱市民参画専門部会における工程表 ②事務局1案工程表 ③事務局2案工程表 上記3案を会員に提示。 工程中の条例審議会等について事務局から説明。 4. 会員の主な意見・質疑等 ・今までに条例の必要性等については共通理解を得ているはず、これから条例の中身について話し合うのにどれくらいの時間が必要かそれによってスケジュールが変わってくる。 ・例えば自治会等へ出向いて説明会を行い、意見をフィードバックさせる等の作業量をどの程度にもっていくかによっても大きく変わる。 ・じっくり時間をかけるべき。市民の皆さんと一緒に作ったという実感をもって議会に出すためにも労力・時間が必要。 ・大まかなスケジュールは定める必要がある。 ・3年以内に目途をつけてボリュームを何処に置くか、やっていく中でどうしても期間を取らなければならないことがあれば対処するようなやり方であるべき。スケジュールを立てなければ審議会の準備も出来ない。我々に注目している人から何時になったら条例が出てくるのかということになりかねない。概略を立てどのような時に修正するのか戦略を持たなくてはいけない。 ・以前話題になっていた市会議員の視察報告が今日あればスタートしやすいとの認識でいた。今日あれば良かった。 ・進捗状況によって月2回の開催で足らなければ月3回に増やしていい。基本条例の条例数のボリュームによって必要な開催回数が出てくるのでは。 ・偏ったメンバーと思われては理解を得られにくい。様々な形で市民参加を得る中で考えを市民に出していくほうが理解を得やすい。従って、相当の時間がかかる。

- ・事務局案を見たら議会上程の時期が示してある。我々として何年何月の議会に上程するのかを一つの目標に考えてはどうか。
- ・大和市の事例と事務局案とは草案のたたき台の有無に違いがある。時間はかかるが、市民への発表を大和事例のように２段階にすべきではないか。
- ・大和市のタイムスケジュールを参考に、今日は工程表の大きい項目を決めていけばいいのではないか。
- ・市民を如何に巻き込んで条例を制定していくかが大事。従って２年そこいらでは足りない。時間はかかる。
- ・行政・議会・市民・各種団体が抱える課題・問題を把握して提示し、市民の意見を集約して条例素案をつくり市民の中に入っていくという工程になると認識。
- ・問題点を出すのにどれくらいかかるか、PR等するのにどれくらいかかるのか。
- ・なにをやっていくかまず決めてどれくらいの期間それをやっていくかを決めていく。
- ・問題をここに出して方針を作ってそれを基にアンケートやPRをしていくことが先じゃないか。ある自治会長から条例の必要性について全く念頭がないとの意見があった。
- ・問題点を出すという項目との理解でいいんじゃないか。
- ・今日の意見を集約すると資料③（事務局２案工程表）をベースにするとの意見とたたき台と素案をつくるという意見を組み合わせ、２０年９月にたたき台の作成、２１年３月に素案を作成する。それを再び叩いて素案を２１年の９月に仕上げていく。今から一年くらい洗い出しをしていく。大和市の事例がそうだ。それからアクションを起こしている。一つの道筋を決めて、次の叩き台までの期間をどうもっていくか、市民の間に浸透するよう学習会とかをどの辺りにもっていくかを検討してみてもいいと思う。
- ・２１年の９月に素案を纏めるとの予定でいいか。⇒了承。
- ・次回の会議までに大まかな流れを会長で作成してもらえれば。
- ・住民投票条例が施行されているので、自治基本条例案否決の際はこれにかけることもできる。

5. 次回会議について

- ・次回、行政・議会・市民に係る現状の問題点・課題を抽出するので各会員が思うことをペーパーに纏めて持ち寄って欲しい。
- ・メール等で事前提出された会員意見があれば事務局で集約し纏める。
- ・次回の開催では、検討内容を行政の問題・課題を主題に議論する。